

史跡草津宿本陣 **本陣楽座**

落語の上演

● 演者 桂春之輔・桂福留

🕒 6月17日(土) 17:30~18:30
 定 50人(先着順) ¥700円
 申 6月2日(金)~、直接か電話で
 申・問 史跡草津宿本陣(草津一)
 ☎️ FAX561-6636

✂️キリトリ



水生植物公園
みずの森

〒525-0001
下物町1091
☎️568-2332
FAX568-0955



歴史ギャラリー

草津に残る古き鐘撞きの御堂 —西方寺鐘楼(県指定有形文化財)—

No.187

時刻を知る最も身近なツールは時計ですが、現在使われている西洋式時計が日本で普及する近代(明治~昭和初期)以前はどのように時刻を知っていたのでしょうか。日本に機械式時計が導入されたのは戦国時代にさかのぼり、江戸時代には本国製の時計も製造・改良が重ねられましたが、広く一般に普及するものではありませんでした。一般の村・町には時刻楼や塔が建てられ、鐘を鳴らして時刻が告げられたり、在郷の寺々からの朝・昼・夕の鐘の音から時刻を知ることが普通だったようです。

さて、今回は昔の時報の役目も果たしていた寺院内に残る鐘撞き堂を紹介します。この御堂は、草津市青地町にある西方寺に所在し「西方寺鐘楼」として平成6(1994)年に滋賀県有形文化財(建造物)に指定されています。上層は横幅3間(約3.79m)、縦幅2間(3.03m)で、下層に緩やかに裾を広げた袴のような腰板を廻りに付けた建物で、内部には階段が作られ、2階には梵鐘が吊り下げられています。屋根は丸瓦と平瓦を組み合わせた本瓦葺きの入母屋造で、南面中央を開放し、その脇に連子窓(細い木を並べて組んだ窓)を付けています。屋根廻りや2階の廻縁(バルコニーの

ようなもの)には日本古来の組み物や欄干(装飾された転落防止柵)など意匠を凝らしています。この鐘楼は、西方寺建立当初から存在したものではありません、もとは慶長9(1604)年に、京都東山の常光院に建てられ、明治18(1885)年に京都三条の檀王法輪寺に移築、さらに昭和37(1962)年に西方寺へと再移築された建造物で、中世の鐘楼建築の様式を今に伝える貴重な建造物で、移築前の京の地では、この鐘楼が鳴らす鐘の音が聞こえ、時刻を知った町人が多くいたことだろうと想像されます。



▲西方寺(青地町)の鐘楼(県指定有形文化財)

※上部は、屋根を長辺方向から見て2方向に傾斜がある切妻造で、下部は前後左右4面に傾斜がある寄棟造が合わさった建物構造

問 歴史文化財課(6階) ☎️561-1503、FAX561-2488

Kusatsu Information

いつでもどこでも「広報くさつ」



市ホームページ



ラジオえふえむ草津 (FM78.5MHz) 「声の広報」



スマートフォン用アプリ

- マチイロ
- SideBooks(ちいき本棚)

市公式ソーシャルメディア



草津市メール 配信サービス

市の情報をメールで 配信するサービス



くさつチャンネル

さまざまな動画や、びわ湖放送(BBC)で放送されている草津スケッチもこちらから配信!



市の花 アオバナ



市の木 キンモクセイ

4月30日現在(対前月比)

- 人口138,993人(+393)
- 世帯数63,368世帯(+394)
- 男69,760人(+243)
- 女69,233人(+150)

国スポ開催まであと

850日

わたSHIGA輝く 国スポ・障スポ2025

障スポ開催まであと

877日



開催までカウントダウン!